

2019年10月〇日

衆議院議員（参議院議員）

〇〇 〇〇 様

2021 年度大学入試の民間英語検定の利用を中止してください

貴職におかれましては、すべての子どもの成長・発達を保障するゆきとどいた教育の実現に向けてご尽力されていることに、心より敬意を表します。

2021 年度大学入試における民間英語検定利用については、現高校 2 年生が対象となるため、いま高校では情報不足や大学の取扱いに差があることなどから不安と混乱が大きく広がっています。

すでに英検が予約を開始し予約金 3000 円を徴収していることから、実態として民間英語検定利用が始まっています。しかし、他社の動きが見えず対象となる高校 2 年生や担当教員などが英検の予約をすべきかどうか迷っています。予約期間終了後 1 週間余りの返還期間が設けられていますが、期間が短く他の動向が不透明なため返還を申し込まない可能性もあります。また、「共通 ID」発行申込みが 11 月 1 日から始まることになっているため、残された期間はあまりに短く、現時点で指摘されている問題が解消されないまま本番に突入するおそれが強くなっています。

民間英語検定の利用には次のような問題点があると考えます。

- ① 大学入試で利用される民間英語検定の内容がまちまちで、受験料負担や受験機会の公平性が確保されない点や経済状況や地域的な格差に対する方策がないこと、障害のある受験生への配慮が十分とは言えないこと、受験生が安心して受けられる体制が整っていないことなど、入試で最重要といえる公平性や公正性に対する疑問や不安が拭い去れない
- ② 英語 4 技能と各民間英語検定の目的や評価基準に違いがあることや、検定試験のスコアと CEFR との対照の問題など、英語民間検定を入試で利用することそのものへの疑問がある
- ③ 民間英語検定の質に関する実質的な審査は行われておらず、試験の運営が民間検定試験団体に丸投げされ、第三者が監視・監査する制度がない
- ④ 会場や人手の確保が難航しているとの情報もあり、高校会場の利用等が行われれば、公正性・公平性が低下するとともに、高校教員の負担増につながる
- ⑤ 合否判定に使わない、または、最小限の影響しか与えない使い方でありながら全員に受験を課す国立大学が多く、受験生は不合理な経済的・時間的・精神的負担を強いられる

大学入学共通テストを含む大学入試「改革」についての不安や不信感が高まり、大学入試制度への信頼性が大きく損なわれようとしている現状をふまえ、文科省および大学入試センターにはこのような不安や問題を払拭することが求められています。

全教は、文科省に対して下記の要請をおこなっています。つきましては、貴職のご理解とご協力をお願いいたします。

記

1. 民間英語検定の利用については、多くの課題が残されているため、拙速な導入をおこなわず、2021 年度大学入試における利用を中止すること。それに伴い「共通 ID」発行等の作業も中止すること。
2. 「英語 4 技能」測定に固執した入試のあり方を再検討すること。
3. 公教育を営利目的の民間業者に委ねる「教育の市場化」をこれ以上拡大せず、高校および大学教育への介入をおこなわないこと。

以 上

<ひとこと>

住所：_____

団体・代表者名 or 個人名：_____